



道北地区の配備を目指し ドクターヘリ試験運航

平成20年9月22日 道北ドクターヘリ運航調整研究会



北海道内で2機目となるドクターヘリの道北地区配備を目指し、道北の自治体や医療機関等で構成する「道北ドクターヘリ運航調整研究会」がヘリ導入に向けて試験運航を実施、患者の搬送や受け渡し訓練を展開しました。

今回の試験運航は稚内市をはじめ枝幸町や遠軽町などから救急要請があったと想定して行われており、羽幌町では高所から転落した患者が外傷性ショックと出血により意識不明という想定でドクターヘリを要請、ヘリの着陸とともに同乗していた医師らが駆けつけ、

初期治療及びヘリへの搬入と、救急隊から患者を引き受ける一連の流れをシミュレーションしました。

このあと機長や整備士、同乗の医師たちのヘリ側スタッフと、消防署や道立羽幌病院、役場職員らとで質疑応答が行われ、患者受け渡し時の連携やヘリ導入にあたっての課題などについて確認していました。

ドクターヘリ

救急救命処置を必要とする患者が発生した現場に医師及び看護師を迅速に到達させ、速やかに初期治療が行われるために用いられる救急医療専用ヘリコプター。

発祥国ドイツでは国内に70機あまりが配備されており、出動圏内を半径50kmとして国内全ての地域で出動要請から約15分で到着できるよう網羅しています。ドクターヘリ導入後、交通事故による死者数が1/3にまで減少したといわれています。

日本では平成13年にドクターヘリの導入がはじまり、現在では北海道を含む13の道府県で14機配備されています。



ヘリ側のスタッフから質疑応答を交えレクチャーを受けました。救急隊員ら関係者が真剣な表情で説明を聞いていました。



機内には必要な医療機器類を装備。患者は機体後方の扉からストレッチャーごと乗せることができます。



約35メートル四方のスペースがあれば着陸可能。場合によっては、道路上に着陸なんてことも！



到着した医師らが現場で初期治療を行います。「重篤な患者にいち早く治療を受けさせる」これがドクターヘリの一番の目的です。